明智光秀 丹波平定の道
和合の儀 を開催

記念碑を除幕する京丹波町太田町長（左）、亀岡市桂川市長（中）、西村市長（右）

式典の様子

平成30年11月26日、明智光秀によって落とされた八木城跡の麓に佇む龍興寺（八木町）で、「明智光秀丹波平定の道 和合の儀」が開催されました。〝和合〟とは、仲良く、親しみ合うなどの意味があり、「歴史的遺恨を乗り越え、2市1町と商工・観光関連団体が寄り添いながら、歴史的観光資源の発掘への第一歩にしたい」という思いが込められています。

式典では、丹波平定時の戦禍により命を落とされた多くの方々や動物、植物も含めた万物への慰霊や鎮魂に向けたお経があげられました。また、参列者には、和合茶礼が振る舞われ、お茶とともに遺恨の念を流しました。

▲お経を唱える龍興寺の住職

▲和合茶礼をいただく参列者

続いて、和合の証として、ボタン、ツツジ、キキョウの苗のお手植えが行われました。ボタンは光秀と戦った八木城主・内藤氏ゆかりの龍興寺、ツツジは光秀が再興した玉雲寺（京丹波町）、キキョウは光秀の首塚がある谷性寺（亀岡市）を意味しています。龍興寺での式典終了後、各寺を代表者らが訪問し、お手植えを行いました。

▲龍興寺

◀（上）玉雲寺（下）谷性寺